

提携企業と連携して、高菜の栽培から一次加工、二次加工までを実施。地域農家の農作業受託や農業生産法人への一般就労などを通じて、地域農業に貢献。



基本情報

設立:H16年 / 農福連携取組開始:H20年

きっかけ

H20年

県中部振興局主導の下、高菜の栽培を新たな品目への取組として計画し、提携企業と連携して栽培から一次加工、二次加工までを開始。

取組

人を耕す

- 一般就労した障害者に対しても、仕事が継続できるように必要な相談等の支援を行う「就労定着支援事業」を行うことで、ワンストップでステップアップを支援する体制を整備。
- 地域の基幹品種であるピーマン農家に実習生を派遣し採用され人手不足解消に貢献。
- 加工場で働く利用者らのために、ソックダクト(自然対流式の冷却装置)システムを採用。

地域を耕す

- 県中部振興局主導の下、産地パワーアップ事業を活用し、提携先のふるさと館と東乃匠とともに高菜の栽培や加工を実施。
- 自社ほ場だけでなく、地域の農家から米やだいこん、梅などの栽培に係る農作業を受託。
- 様々な地域のイベントに出店するとともに、地域の公共施設や支援学校等に喫茶店を開設。栽培した米や野菜、漬物等を使用した定食等を提供し地域活性化に貢献。

未来を耕す

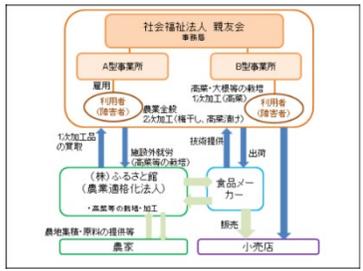
- 最新鋭の設備を完備したHACCP基準の加工場で、梅干し(小梅・南高梅)、高菜漬け20アイテム、浅漬け40アイテムなどを製造。お中元、お歳暮のギフトとしても好評。
- 高崎山自然動物公園にエサとなるさつまいもを提供しているほか、清掃作業を受託。
- 特別支援学校の保護者会や、障害者施設の職員、地域の議員など多くの視察を受け入れ。

概要

主力商品

(農作物)高菜、米、唐辛子、かぼちゃ、じゃがいも
(加工品)漬物

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

成果

平均工賃月額	農作業・加工 に関する障害者の数	売上高	農地面積
32,064円(R2) →38,313円(R6)	A型:19人(R2) →19人(R6) B型:18人(R2) →20人(R6)	9,713万円(R2) →12,175万円(R6) ※農業・加工品等	9ha(R2) →13ha(R6)

- 地域の農業生産法人への職場実習から就職につながった利用者があり、地域の農業の担い手として活躍。その活躍を見て、地域の農業者の間で障害者への理解が促進。
- 地域の特別支援学校の1階にて喫茶店を開店。特別支援学校の生徒が実習を行い、卒業後の飲食店への就労にも寄与。
- 特別支援学校の生徒の職場体験の受入を行う(令和6年度5名)。

住所:大分県大分市大字辻1381番地の1
TEL:097-595-1711
Mail:hatake.shisetuchou@3-flower.jp
URL:https://3-flower.jp/pages/7/

県のコーディネーターを中心とした農業経営体と障害者就労施設のマッチング支援により、工賃向上や農地の維持、農業経営体の規模拡大に貢献。中間支援者のためのマニュアル作成など、「佐賀モデル」が全国へ波及。

地方自治体

佐賀県
佐賀市



基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:R3年

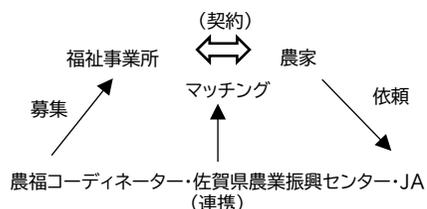
主な選定表彰:ノウフク・アワード2024フレッシュ

概要

主力商品(障害者等が生産に携わっている農産物)
きゅうり、たまねぎ、アスパラガス、ネギ、ピーマン、ホウレンソウ、スイートコーン、トマト、ニラ、バジル、小松菜、いちご、すもも、みかん、レモン、梨、畜産

特徴的な取組
中間支援

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

住所:佐賀県佐賀市内1丁目1番59号

TEL:0952-25-7118

Mail:nougyoukeiei@pref.saga.lg.jp

URL:https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00396354/index.html

きっかけ

R3年

高齢化による農家の担い手不足、コロナ禍で障害者の就労が不安定となる中、令和3年度に副知事をトップとした「農福連携プロジェクト推進チーム会議」を設置。

人を耕す

- 県農業経営課及び障害福祉課就労支援室に1名ずつコーディネーターを配置。
- 農福連携技術支援者であるコーディネーターが障害者に対して能力や適性に応じた農作業等の選定、見える化や治具の作成等の支援・助言を実施。
- マッチング後も農家と障害者就労施設の声を拾い、サポートするとともに、双方の信頼関係が深まるように支援。

地域を耕す

- マッチング数の増加に伴い中間支援を行う人材が不足しており、令和6年度から農福連携技術支援者育成研修を開催。また、農業振興センターやJA職員を対象とした中間支援の研修会を定期的で開催することで好循環のマッチングを実現。
- 農家と障害者就労施設による体験イベントの開催支援や、地域の自立支援協議会就労支援部会での説明会、特別支援学校での説明会等により農福連携の認知拡大に貢献。

未来を耕す

- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。県外からも研修会の依頼があるなど、「佐賀モデル」として全国へ波及。
- 全国で初めてノウフクJAS製品である非常食「緊急救命72hおかゆ」を防災備蓄品として障害者優先調達推進法に基づいて購入し、就労支援B型事業所の工賃向上に寄与。

取組

成果

売上高

479万円(R3)
→891万円(R6)
※マッチングの実績の売上を合計して算出

参加障害者就労施設

13団体(R3)
→44団体(R6)

参加農業経営体

14団体(R3)
→56団体(R6)

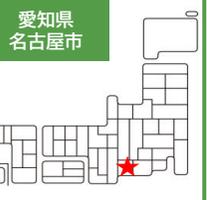
マッチング件数

25件(R3)
→86件(R6)

- マッチング支援を通じた就労機会の増加により、福祉事業所での工賃向上に寄与。
- マッチング支援により、農地の維持、規模拡大に貢献。(例えば、ピーマンのヘタ切り・調整をJA選果場で複数の障害者就労施設に依頼したことにより、農家は収穫作業に集中できる。)
- 障害者就労施設に調整作業を依頼したことで農家が栽培管理に手が行き届き、品質が揃ったことで障害者就労施設も調整しやすく出来高アップの好循環や、利用者が作業しやすい作物を作るために品質の良いものを作りたいという農家の思いから品質の向上に繋がる多数の事例が誕生。
- 農家と福祉事業所が連携した体験農園の開催支援により、交流人口の増加に寄与。県内で3つの地域協議会が発足し、農福連携の推進に貢献。

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

福祉事業所



基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H28年
 取得認証等:認定農業者(R7)、農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R4)
 主な選定表彰:R4年度名古屋市食育イノベーション大賞優秀賞

概要
主力商品
 (農作物)米、白菜、サツマイモ
 (加工品)一味唐辛子
特徴的な取組
 環境保全型農業、自然栽培、特別栽培農産物、スマート農業、ユニバーサル農園

体制図
 株式会社ウィンパートナーズ
 ↳ ぽかぽかケアサポート (訪問・居宅)
 ↳ ぽかぽかワークス (就労B)
 ・ ぽかぽかファーム
 ・ ぽかぽか自然農園元中野町 (市民農園)
 ・ 子ども未来基地 (ユニバーサル農園)

住所:愛知県名古屋市中川区荒子5-165
 TEL:052-398-6320
 Mail:kudo@win-p.com
 URL:https://www.win-p.com/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H28年

内職や施設外就労メインの事業所から、県の農福連携セミナー参加をきっかけに農業に参入。循環型農業と農福連携に取り組むほか、子ども参加型体験などを展開。

人を耕す

- 障害者だけでなく、生活困窮者やひきこもり20名で取り組む。刑務所出所者も5名受け入れ。
- 農作業マニュアルや工賃規定等を整備することで作業効率を高め、工賃とモチベーションが向上する仕組みを構築。また、スパイダーモアや刈払い機などの作業を障害者が行える環境を整備し、作業効率をさらに向上させた。
- 農作業を通じて、地元の信頼を獲得し、農業土木委員等で水回りを担う者を輩出。

取組

地域を耕す

- 生産が減少している愛知県の伝統野菜「野崎白菜」の生産・販売を行い、普及に寄与。
- 認定農業者、JAの正組合員、地域計画の担い手として、荒廃農地14,588㎡を開墾・再生し、農地面積を9haまで拡大。
- 地域のお祭りや防災訓練イベントへの参加、自然栽培の農業体験イベントの実施などを通じ、地域住民や学生ボランティア、行政、企業・団体など地域の交流・連携の場を創出。

未来を耕す

- 都市部での循環型農業の拡大を目指し、アイガモロボを活用した米作りを実施。子どもがスマート農業技術に触れることで、農業の価値観の変革も目論む。
- JAなごや、中川区社会福祉協議会、地元企業・飲食店等と連携し、稲作の農業体験「みんなで未来をつくる米！プロジェクト」を実施し、都市農業の保全、地域活性化に寄与。

平均工賃月額	交流人口	売上高	農地面積
11,837円(R2) → 21,367円(R6)	165人(R3) → 3,513人(R6)	190万円(R2) → 1,625万円(R6)	2ha(R2) → 9ha(R6)

成果

- 1名が一般就労し、生活困窮者2名が事業所の職員として活躍。その姿を見て、他の障害者も一般就労を目指して訓練するなどの好循環を生む。
- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由で遊び心のある農体験を提供。多世代かつ障害者、ひきこもり状態の者、生活困窮者など多様な人が参加し、交流できる場を創出。
- 農福連携×都市農業というブランディングで成功し、米の付加価値向上を果たす。現在は、結婚式の両親贈呈品(体重米)としても全国で販売。